

一寸光陰不可軽

人国記

徳島県には「四国三郎」の異名を持つ日本三大暴れ川の1つ、豊富な水量を誇る吉野川が流れています。私が生まれた鴨島町(現吉野川市)は、この川の中流域。昔は海からの船がこの辺りまで上がってきたり、養蚕が盛んだったりと、田舎のわりにはにぎやかな地域でした。でも、台風には毎年悩まされ、雨や風に対する恐怖を常に抱いて育った記憶が残っています。

父は、鹿児島出身の物静かな男で、東京に出て時計職人として働いていました。母も東京で和裁の仕事に就き、結婚して東京で暮らしていたのですが、空襲で家を失い、母の実家がある徳島へ戻ってきたようです。徳島で、父は修理専門の時計商を営み、母も和裁の仕立てで家計を助けていました。私は小さいころから、父の仕事場で

元マツダロードスター主査

歯車などの時計の部品をおもちゃ代わりにして遊んでいたそうです。父の働く姿、とくに時計の分解掃除をしているのを見るのが好きで、父が何かの弾みで小さなネジを飛ばしてなくしてしまい、「ありがとう」と言ってお返しすると、「ありがとう」と言ってお返しする程度でしたが、よい思い出です。

「讃岐男に阿波女」という言葉がありますが、母は典型的な阿波女。夜に母が和裁の仕事をしているのを横目で見ながら眠りに就き、朝起きた時も同じように仕事を続けていることがよくありました。その一方、貧乏なのに旅行好きで、「カネは天下の回りもの



吉野川に架かる「阿波中央橋」。昨春、愛車ロードスターで訪れたときの1枚

昭和28年、町内の吉野川に「阿波中央橋」という立派な鉄橋が架かりました。長さ821mは完成当時、日本一の長さで、進駐軍から鋼材の供与を受けるなど苦難を重ねて完成したそうです。両端の親柱は世界的彫刻家、イサム・ノグチのデザイン。のちに私の「本拠地」となる広島市の、平和公園に架かる橋もイサム・ノグチがデザインを手がけたんです。今も、盆と正月に墓参りで帰省したときなどに必ず阿波中央橋を渡りますが、何やら縁を感じられずにはられません。

この橋だけでなく、幼少時代は「都会」だった徳島市から吉野川をさかのぼるように、だんだん良い道路が伸びてきていたところで、よく工事現場を見に行ったり、近くの砂利道がきれいな舗装道路に変わっていくのがうれしくてたまらなかった。子供ながらにモーターレーションの進展を肌で感じていたわけです。

時計部品おもちゃ代わりに



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ぎめ購読料30000円の朝刊紙です。九州山口地域でも、ご自宅や会社へ配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは
0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474